

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○授業展開の工夫をしたり、個に応じた指導・支援の充実を図ったりしながら、基礎・基本の定着を目指す。○重点研の研究テーマを「言語の力を伸ばし、自分の思いや考えを生き生きと表現できる子どもの育成」と設定し、国語科の学習を中心に、自分の思いや考えを主体的に表現できる活動を設定する。	○学年研の時間を充実させ、授業展開や個に応じた指導について、学年が統一して進められるようにしたことにより基礎・基本が定着してきている。 ○国語科の研究を通して、自分の考えをわかりやすく話す力や語彙を増やし表現する力が少しずつ身につけてきている。	B
豊かな心	○学級目標の中に、人とかかわりを含めた内容を入れ、人権感覚と意識の定着を図る。 ○たてわりでの取り組みを通して、思いやりの心を育てる。 ○年間を通してあいさつ運動を行い、人との接し方やマナーを身につけさせるとともに、地域の人たちに対する感謝の気持ちを育てていく。	・年度当初に、人権的な内容を含めた学級目標を立て、そこを基盤に様々な取組を行うことで、人とかかわりを意識しながら過ごすことができた。 ・たてわり活動では、他学年とのかかわりが密接になり、他者を思いやる心が育っている。 ・あいさつ運動は、これからも定期的に行い、あいさつの習慣化をはかりたい。	B
健やかな体	○早寝・早起きの励行、朝食を食べたり、適度な運動をしたりする等の健康的な生活習慣を身につける実践力を育てる。→養護教諭・家庭科専科との連携(3・4年の保健、家庭科) ○外遊びや運動の推進を図ることで、健やかな心と体を育み、たくましく生活できる力を育てる。→運動委員会や集会委員会との連携(とべとべフレンドパークやたてわり集会)	○養護教諭だけでなく、栄養士とも連携し、規則正しい生活を送るために必要な知識や実践的な理解について保健学習や家庭科、栄養士による指導を通じて深めることができた。 ○運動委員主催のとべとべフレンドパーク以外に、体力を高める運動を奨励するような「体力アップ大作戦」を計画中である。生涯を通じて必要な基礎体力の向上をもっと目指したい。	A
国際交流	○オーストラリアとの姉妹校交流を通して、目的をもったコミュニケーションの機会をもつ。 ○オーストラリアに対する児童の興味・関心、イメージがもてるよう、校内に国際交流コーナーを設置し、オーストラリアのことや姉妹校からの写真を掲示する。 ○委員会でイングリッシュ週間を決め、集会やパクロスに楽しんで取り組めるようにする。	○オーストラリアとの姉妹校と、クリスマス&ニューイヤーカードを作って挨拶をしたり、簡単なビデオレターの交流をしたりして、実際に伝えたいという意欲をもつてのぞみ、貴重なコミュニケーションの機会となった。 ○国際交流コーナーに、オーストラリアのことや日本文化を勉強している様子や掃除をしている写真を掲示したことで、相手意識が芽生えた。 ○イングリッシュ週間で、集会やパクロスに取り組んだことで、英語に親しむきっかけとなった。	B
地域連携	○地域防災訓練等に対して学校が協力できることを考え、児童と職員が積極的に参加できるようにする。 ○各地域の代表者の方々や学校懇話会の意義と役割について共有し、懇話会設置に向けた準備を行う。	○地域防災訓練を学校と地域が協力して行い、防災意識を高めることができた。 ○学校懇話会では地域の要望やアドバイスを受け、地域と連携しながら学校体制を整えていった。	B
児童生徒指導	○子どもとのコミュニケーションを大切にし、児童理解に努める。 ○教育相談の場を充実させ、問題の早期発見や未然防止に努める。 ○定期的に教職員の研修を設定してスキルを高めたり、教職員どうしの情報交換を密にして情報の共有化を図ったりして、校内の自浄能力を高めたい。	○職員会議、児童指導、特別支援、人権教育等、学校全体として、児童理解に向けての取組を進めてきた。教育相談の場も周知・活用されるようになり、問題の早期発見や、未然防止につながっている。 ○教職員研修を行うことで、情報の共有がなされ、職員相互の適切な働きかけが増えた。	B
人材育成・組織運営	○メンターチームを4年目未満教職員が中心となり、10～12年次教諭や主幹教諭を講師とし、模範授業を公開するなどして研修を積み授業力を高める。 ○特別支援・人権・児童指導等の研修会を開き、教職員全体で組織的に対応できるようにする。	○毎回テーマを設け、自分たちが提案者となり ○毎回テーマを設け、自分たちが提案者となって研究協議を行ったり、先輩教諭の講義を受けたりすることにより、教師としての力量を高めることができた。 ○学校全体の運営を特別支援・人権・児童指導等が組織として進めてきた。学年が指導の基盤に立ち、全職員が適切な対応を支援することができた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	○西柴中学校ブロックにおいて連携・協働して小中一貫教育が進められるように、目標である「自己肯定感を育成する指導の工夫」や育てたい子どもの姿に照らし合わせながら、共通取り組み項目「育てたい資質・能力」の内容について検討・協議をした。また、年間4回の授業参観、うち1回は合同授業研究会を行い、小中一貫教育の充実を図ることができた。今後も継続していきたい。 ○児童生徒交流日、中学校部活動(吹奏楽部、陸上部)の小学校への協力、小学校での中学校生徒の職場訪問や体験活動等を通して児童生徒の交流が深まった。今後も小中が連携して教育活動を行っていきたい。		
学校関係者評価	○学校司書が配置され図書室が使いやすくなったため、児童の利用が増えている。市民図書は週1回昼休みには利用できるが、放課後は一度帰宅してから利用する約束があるため、利用者数は伸び悩んでいる状態である。利用の仕方を改善できるとよい。 ○あいさつの習慣が身につけているかというアンケートでは、保護者の見方の方が児童の自己評価よりも低い結果となった。自分ではあいさつしているつもりでも、相手には伝わっていない場合がある。相手の目を見る、言葉にするなど相手意識をもってあいさつするよう指導するとよい。		

学校経営中期取組目標振り返り	三年計画の一年目であり、達成状況はまだ十分満足はいくものとはいえない。引き続き、落ち着いた児童指導の基盤に立って、基本的な生活習慣や豊かな人間関係、確かな学力形成を図り、義務教育9年間を見直し、青年期へつなぐことをめざして取り組みたい。
----------------	--

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	b5		
豊かな心	b6		
健やかな体	b7		
	b8		
	b1		
	b9		
	b2		
	b10		
	b3		
人材育成・組織運営	b12		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			

学校経営中期取組目標振り返り	
----------------	--

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	c5		
豊かな心	c6		
健やかな体	c7		
	c8		
	c1		
	c9		
	c2		
	c10		
	c3		
人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			

学校経営中期取組目標振り返り	
----------------	--